

## 薬物療法の“進化”と患者の悩みの“変化”

～薬剤師に期待する服薬コミュニケーション～

一般社団法人CSRプロジェクト  
がん・ソリューションズ株式会社

桜井なおみ



## 1. 薬剤師さんと私

2

なぜ血管炎は起こるのですか？

3

一人の患者のシンドサを  
しっかり受け止めて  
考えてくれたことが嬉しかった。

4

痛み止めと睡眠薬を受け取ったら、「心から痛みを感じることもある」と言われた…

かかりつけ薬剤師さんを見つけたらとっても気持ちが楽になった！

抗がん剤治療中、涙が流れて止まらないうつたら、メンタルの患者さんだと思われた

食事のことや日焼け止めなど、細かい薬選びの話を聞いたら丁寧に教えてくれた！

体調の変化が（自分のせいではなくて）薬のせいだと知ってほっとした！

定期的に使っているのに、毎回残薬が足りないで郵送になる…もうしれないので変えた

黒ずんだ爪先を見られるのが恥ずかしかったけど寄り添ってくれた！

目薬の選び方のポイントを聞いたら、一緒に考えて、眼科へ電話してくれました！

服薬のタイミングが違ってたさんの薬一包化を提案してくれてうれしかった！

## 2. 患者体験調査から見えること

### 療養に関する相談が可能であったか

問12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか回答選択肢：{相談を必要としなかった；相談が必要だったが、できなかった；相談できた} 今回の調査では、具体的な相談相手についても質問しており、相談相手としては、自分の家族が69.8%となっており一番多く、次いで主治医が66.8%、友人13.2%となっている。それ以外の相談相手（医師以外の医療スタッフや患者団体等）は10%以下となっていた。

	対象(分母)	算出法(分子)
問12	回答者全体	「相談できた」と回答した患者の割合
結果		<b>76.4%</b>

	全体	A：希少がん患者	B：若年がん患者	C：一般がん患者
相談を必要としなかった	19.9%	17.5%	5.4%	20.4%
相談が必要だったが、できなかった	3.7%	4.5%	5.7%	3.6%
相談できた	76.4%	78.0%	88.9%	76.0%
合計	100%	100%	100%	100%

### 医療スタッフからの情報の取得

問15-1. 「がん治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた 回答選択肢：{とてもそう思う、ある程度そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、そう思わない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問15-1	回答者全体	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した患者の割合
結果		<b>75.0%</b>

### 治療スケジュールの見通しに関する情報の取得

問. 20-1. 治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた。回答選択肢：{とてもそう思う、ある程度そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、そう思わない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問20-1	回答者全体	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合
結果		<b>75.2%</b>

## 治療による副作用の見通し

問20-2. 治療による副作用の予測などに関して見通しを持たた。回答選択肢：{とてもそう思う、ある程度そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、そう思わない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問20-2	回答者全体	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合
結果	<b>62.0%</b>	

	全体	A: 希少がん患者	B: 若年がん患者	C: 一般がん患者
そう思わない	6.4%	6.2%	5.9%	6.5%
どちらともいえない	10.6%	9.5%	13.5%	10.6%
ややそう思う	20.9%	20.9%	22.1%	20.9%
ある程度そう思う	41.9%	38.9%	39.9%	42.2%
とてもそう思う	20.1%	24.6%	18.5%	19.9%
合計	100%	100%	100%	100%

「平成30年度患者体験調査報告書(2020年10月発表)」国立がん研究センター/厚生労働省委託事業

9

## 生活上の留意点についての情報の取得

問.20-11 最初の治療を受けて退院するまでに、生活上の留意点について(食事や注意すべき症状など)医療スタッフから十分な情報を得ることができた。回答選択肢：{とてもそう思う、ある程度そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、そう思わない}

	対象(分母)	算出法(分子)
問20-11	がん治療中に入院したことがある人	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合
結果	<b>71.2%</b>	

## 相談のしやすい医療スタッフ

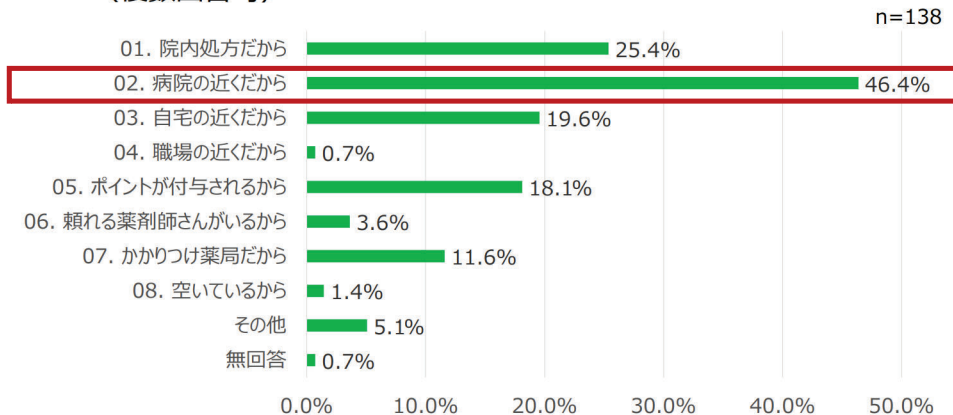
問20-9. 主治医以外にも相談しやすい医療スタッフがいた。回答選択肢：{そう思わない、どちらともいえない、ややそう思う、ある程度そう思う、とてもそう思う}

	対象(分母)	算出法(分子)
問20-9	回答者全体	「ある程度そう思う、とてもそう思う」と回答した人の割合
結果	<b>48.9%</b>	

「平成30年度患者体験調査報告書(2020年10月発表)」国立がん研究センター/厚生労働省委託事業

10

## 4-(2) お薬を受け取る薬局を選ばれた理由について教えてください(複数回答可)



その他: クレジットカードが使えるから(3人)、時間と手間が省けるから(院内処方)、他の薬局に薬が無かったから、ネットにて処方箋予約ができるから、担当医の指示

出典: 「慢性骨髄性白血病(CML)患者へのアンケート結果」  
 主催: NPO法人がんサポーターネットワークジャパン、監修: 木村晋也教授(佐賀大学医学部内科学講座血液・呼吸器・腫瘍内科)  
 アンケートの実施期間: 2022年3月3日(木)~3月17日(木)、アンケートの対象: CML患者(n=138)

11



3. 薬が生活の妨げになって  
いませんか?

12

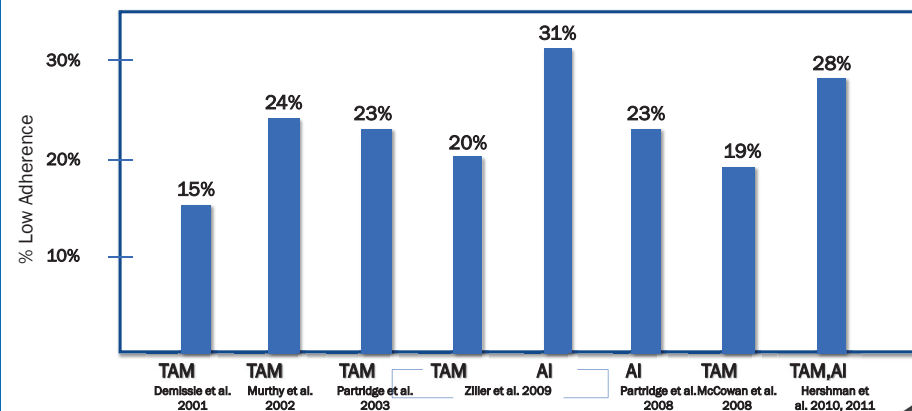
## 5年相対生存率・生存数の推移



出典：全国がんセンター協議会の生存率共同調査（2020年12月集計による、 出所：医薬産業政策研究所ホームページより

13

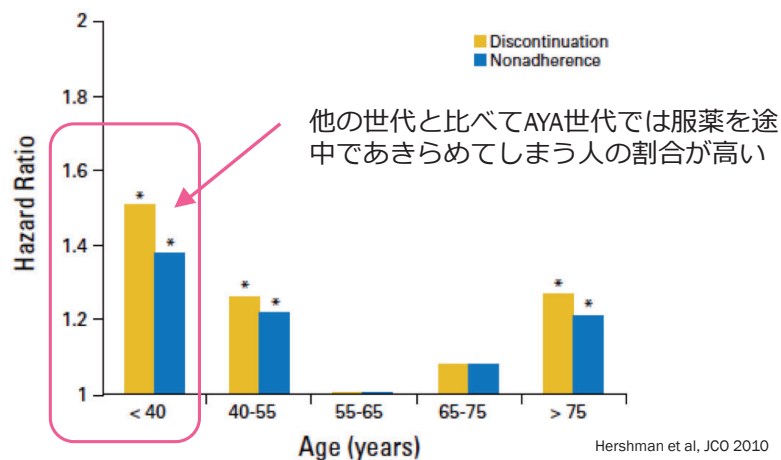
## 乳がんホルモン療法 アドヒアランス不良な患者が多いのが現状



Pharmacogenomics (2012) 13(6), 721-728

14

## Younger Women are More Likely to be Non-Adherent



15

## ホルモン療法の治療効果は高い。

ところが、治療完遂率、アドヒアランスは不良。なぜ？



16

## Poor Adherenceの兆候、予測因子

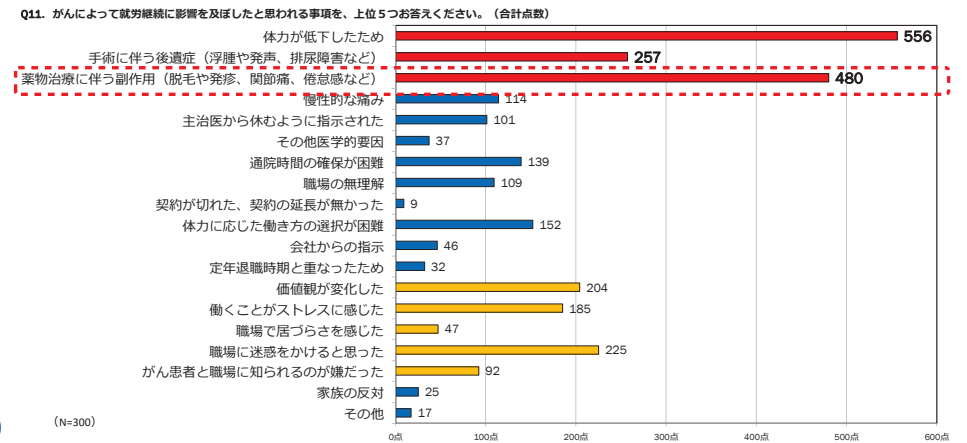


- ✓コミュニケーション不足
- ✓治療への信頼・理解不足
- ✓期待した治療反応がでない
- ✓家族、友人のサポート不足
- ✓心理的問題（うつ）
- ✓慢性疾患（長期治療期間）
- ✓残処方の多さ
- ✓診療予約の欠席

17

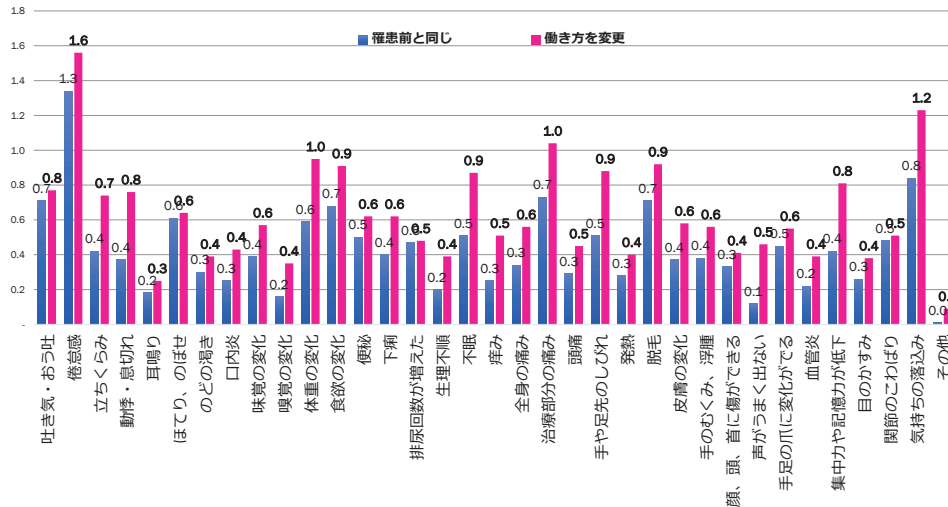
## 薬物療法経験者の就労継続に影響を及ぼした事項

就労継続に影響を及ぼした背景要因の第1位は「体力低下」、第2位は「薬物療法に伴う副作用」、第3位は「術後の後遺症」、第4位は「迷惑をかけると思った」、第5位は「価値観が変化した」となっている。



18

## 副作用のつらさと就労継続の状況



19

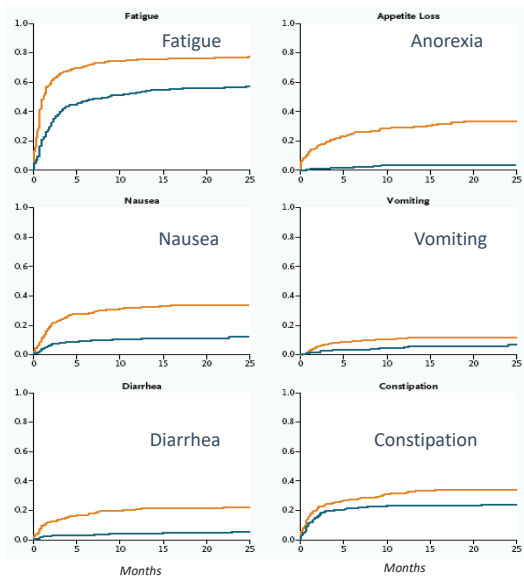
出典：「薬物療法を受けたがん経験者の副作用が及ぼす就労への影響調査報告書（2018年3月発表）」一般社団法人CSRプロジェクト



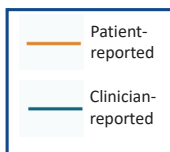
## 4. すれ違いを小さくするために

20

- 医療者の評価は患者の評価より低い
- 評価にはかい離がある。



Basch: NEJM, 2010



### IC:インフォームドコンセント→SDM:意思決定支援

- 患者⇒主観的情報が中心
- ・ 知り合いの経験、噂話
- ・ TV、雑誌などの報道
- ・ インターネットの情報



- 医師⇒客観的情報が中心
- ・ ガイドラインや学術研究に基づく客観的治療情報
- ・ 医師としての経験

- × 医療の専門家ではない
- 浅い医療経験

- × 個人の専門家ではない
- 長い医療経験



## 見ている世界が違うことを意識する

### 現象学の世界

「自分にも見えているものは、ふつう、他の人々にもある程度同じように見えているものとして意識されている（間主観性）」いま見えている世界は、ひょっとしたら、自分たちの脳と知識がつくった世界かもしれません。見えている世界は人それぞれで違う

「病い」の意味は、「疾患」を捉える自然科学的・医学的な見方ではとらえられない。患者や家族が経験している「病い」の意味をも受け止めなければ、十分なケアは成り立たない。

自然を数学化して捉える自然科学的な思考が繰り返し実践されることで、「自然科学的態度」は身につき、習慣化する。患者、家族は生活世界の中で営みをしており、すれ違いが生じる



フッサール

Ernst Mach, Die Analyse der Empfindungen, 1992, Jena, Gustav Fischer

- 緩和の薬の効き目って何だろう？
- 食欲はあるかな？
- 足のむくみ気になるし不安だね...
- 便秘？下痢？
- 体位を変えると咳き込むどの姿勢がいい？
- 家族との対話はあったかな？誰がキーパーソン？
- 皮膚が乾燥してかゆい
- ちゃんと眠れてるかな？
- 生活は楽しめている？

## 医療のハブになるのは薬剤師

- ✓ 悩みは連鎖している
- ✓ 医療の専門化→総合値の不在
- ✓ 副作用の多様化、在宅化



27

## まとめ

- がんの治療は、薬との関係が切って切れない状態になってきています。服薬期間も長期化をし、副作用もさまざまです。
- 「何か相談したいことはありますか？」と聞かれても、相談することがわからないのが現状。「何か気になることはありますか？」「服薬してみてどうでしたか？」「何か気になる症状はありましたか？」など、聞き方を工夫することで患者の行動は変容します。
- 病気の受け止め方は、一人ひとりで異なります。副作用を抱えながら服薬をし続けているのが現状。病院は専門化しすぎてきているので、情報や体調を長期にわたって支える頼れるハブになってほしいと思います。

28

ありがとうございました



29